



ふれあい豊海

豊海地区社会福祉協議会 第 34 号

令和 8 年 3 月



★ 本日は、ありがとうございます。★
★ わたたちが植えて収穫★
★ したお米です。おいしく食べて★
★ ください。 豊海小5年より★

豊海小生徒さんよりお米のプレゼント

ふれあいお楽しみ会 令和7年12月4日



もらってうれしいサンタさんからプレゼント

地域ぐるみ ふれあい

生きがい ささえあい

ふれあいお楽しみ会

サンライズ九十九里 12月4日



豊海こども園



豊海小五年生



ダンス 飯高・中村ペア



うれしいメッセージ



九十九里中学校 音楽部



座布団のプレゼント

豊海地区社協いきいきクラブ



美藤会



交流お食事会

まきのきてい 10月16日



楽しいお食事会



グランドゴルフ大会 11月8日
うまく入るかな？

ね。を謳歌されていたと思う。今は良い時代です
 いう暗いトンネルを抜け、生涯生き生き青春
 せも有る」と、明るく言われた。多分戦争と
 歳を過ぎて好きな本を読み「独りで生きる幸
 戦争敗戦と世の中の急激な変化の中で、八十
 と仰ぐ方々との出会いで、沢山の事を学んだ。
 今から二十年も前だが、読書会で生涯の師

ある。
 輝きは無くとも、求めれば得られる事は沢山
 新しい友達も出来楽しみが増えた。若い頃の
 取り入れた、草野先生のサークルに申込み、
 分の足で歩くを目標に脳トレ、笑いヨガなど
 だが近頃は心身の衰えを感じ、最後まで自
 由さを身に付け、淋しさも遠のいていった。

生涯生き生き青春



下貝塚丘
赤松 昌子さん
(86歳)

シリーズ

No

44

生涯青春
いきいき生きてます

わが地域のキラリさん シリーズ No.2

戦後80年 わが人生に悔いはなし

真亀
内山 いつさん

私の生まれた昭和12年、日中戦争が始まり父は出征してゆき、終結により帰郷し、5才の頃妹が生まれました。父にヌイ子、きよ子、どっちが良いと言われ、私はヌイ子と答えた、籍には二人とも「子」を抜いた。妹の名は偶然にも、祖母と同じだった。又も父は私が6才の頃、大東亜戦争に出征して行った。木枯らしの吹く寒い朝、二度と会えぬ父との別れであった。

母は父と暮らした日々は五年位であったろうが、私は母子家庭の長女としての人生を歩んだ。

昭和20年8月15日、無条件降伏の敗戦となる、私は豊海国民学校二年生であった。

毎日、B-29がトンボのように空いっぱい西の方角に飛んでいった恐怖の日々が終わった。西の空が真赤になった、東京は火災の海となり従兄弟の実、美

恵子が死亡してしまいました。物資は無く、仕事もなく、生活はその日の暮らしを戦う日々であった。

子供でも浜の地曳網の手伝い、ぜんな（貝）採り、山にわらび、きのこ、そうめんだけ、田んぼにはたにし、ざりがにに何でも食べられる物を取った、東金方面に葦採りを一日がかりで出かけ、三日位干して売れた。100本位で30円位になった。

二年後、待っていた父は西部ニューギニアヌンホル島にて行方不明の戦死とのことであった、私は小学四年生の時、野辺の送りを位牌を持って行った悲しみの実感さえ解らぬ年齢であった。

その翌年と思ったが真亀海岸に「米軍基地」が突然表われた、それから十年の間、辛く悲しみの多い日々を過ごすことになった。赤線地帯に代わっていった。風紀は乱れ、派手な店が建ち並び、海は漁も無く、無人機（赤トンボ）を飛ばし、月曜日から金曜日まで攻撃の練習で震度5位の地ゆれの日々である。子供は長欠児童が増え、ヒロポン愛用の若者が続出していった。

昭和30年の頃、私18才で貧困の為、高校進学をあきらめ、「人は師なり」という教えを思い出し、地区の青年会に入会していた。

基地の環境悪化を憂い、かつてこの地に療養していた高村光太郎の妻、知恵子さんを見舞い、「九十九里に遊ぶ詩」にともない、「智恵子抄」の詩碑建立の運動を始めた。昭和32年、突然基地は消えた。詩碑建立運動は町中に広がり、昭和36年7月15日除幕の日を迎えた。光太郎の友人草野心平さんが前日より訪れ、青年たちに詩の朗読の指導をされ、みんなで声高らかに、夏の海辺にひびき流れた、私は生後35日の長男を背負い、式のみに参加した。

昭和40年代と思うが、小学校のPTA役員を受けていた、私は現状の活動をより進展させ、改革を願う性分でいつも比較された日々であった。やっと次女の卒業と同時に私も卒業の頃でしたが、県P（県PTA連協）の副会長を受けることになった。数年後、文部省後援の海外教育視察「ヨーロッパ五ヶ国二週間の旅」に参加することになった。日中は視察、夜は観光で多忙に過ごし、「オランダ、イギリス、フランス、スイス、ドイツ」、あつという間の二週間であった。

私の人生でこの旅の経験が大きな宝物となりました。その後は夫の体調が悪くなり、二度と海外へ出かけることは出来なかった。PTA役員卒業後、婦人会、地区社会福祉協議会、郷土研究会など重ねて生きて来た。

子育て、母、主婦、仕事（家内工業）四本立ての人生で、決して良妻ではなかったが、夢中で精いっぱい生きる人生であった。

八十八年生きてきて「わが人生に悔いはなし」と沁みじみ思うこの頃である。



海外教育視察



海外教育視察会場



文部大臣賞 受賞

発行：豊海地区社会福祉協議会 会長 後藤 新五

編集：広報部 井口 節子：今関 光子：櫻井 憲子：内山 いつ：小澤 君代
齊籐 美恵子：川島 さだめ：阿部 いつ子：嶋田 美保子
古川 圭子：鈴木 喜美子：鈴木 薫：鏑田 静江